

2020年3月期 第3四半期連結業績概要 2020年3月期 通期見通しについて

常務執行役員
山西 哲司

2020年3月期 第3四半期決算のポイント

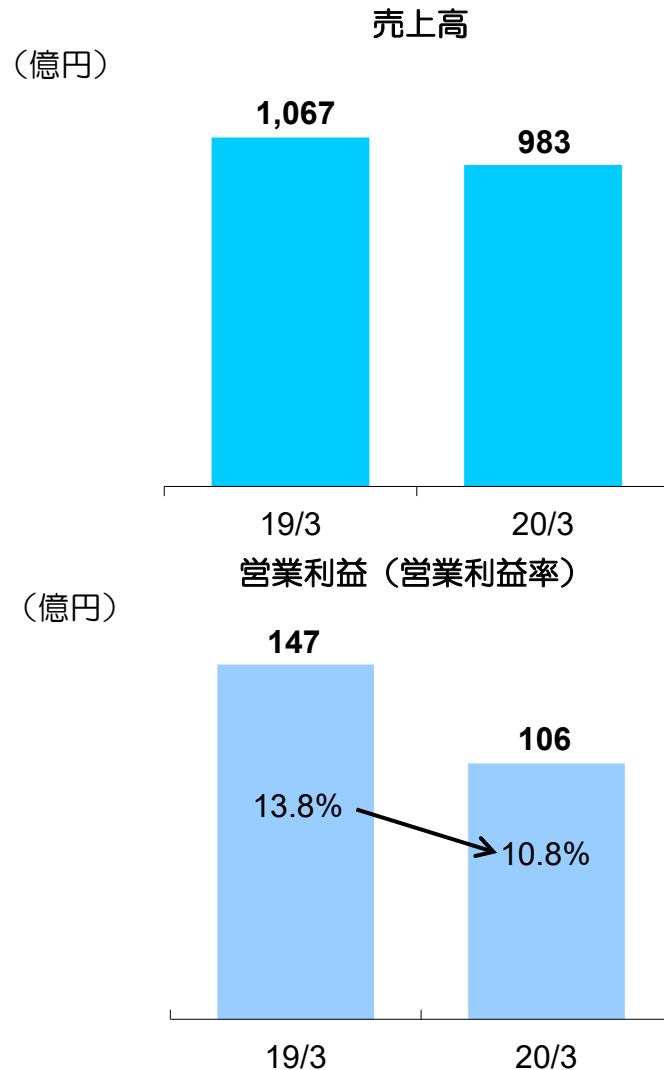
世界経済の不透明感が継続し需要環境に大きな変化がない中、 第3四半期は増収・増益を確保

- 第3四半期売上高は前年同期比1.4%増、営業利益は前年同期比23.2%増
- 9ヶ月累計ベースで営業利益・税前利益・税後利益は過去最高を更新
 - 二次電池が引き続き高い収益性を維持し全社収益を牽引。
 - ICT市場向け売上が、5G向け需要増加を背景に前四半期より引き続き好調に推移し、前年同期比で増加。
二次電池、高周波部品等がスマートフォン・基地局向け販売拡大により全社収益を牽引。
 - 自動車及び産業機器市場は、期初想定を下回る需要水準が継続しており前年同期比で売上減少。
受動部品が減収減益。
センサ応用製品も、自動車市場向けの販売が引き続き低迷し収益改善が遅延。
 - 世界景気の急速な回復は見込めない前提に立ち、市場ニーズを先取りしながら成長機会を確実に獲得できるよう準備を進めていく。

2020年3月期 第3四半期（四半期）連結業績概要

(億円)		2019年3月期 第3四半期実績	2020年3月期 第3四半期実績	前期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		3,508	3,556	48	1.4
営業利益		328	404	76	23.2
営業利益率		9.4%	11.4%	+2.0 pt	-
税引前利益		310	412	102	32.9
当期純利益		224	295	71	31.7
1株当たり利益 (円)		177.45	233.35	-	-
為替	対ドルレート (円)	112.90	108.74	3.7%の円高	
	対ユーロレート (円)	128.87	120.34	6.6%の円高	
為替変動による 影響金額		売上高：約145億円の減収 営業利益：約15億円の減益			

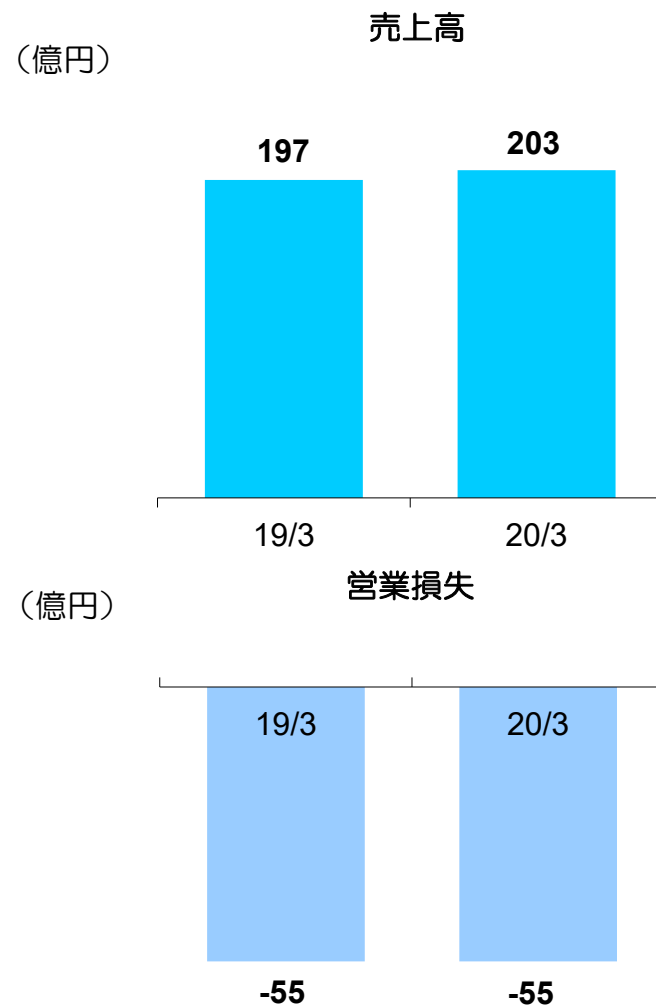
第3四半期各事業の状況（受動部品事業）



売上高 983億円（前年同期比7.9%減）
営業利益 106億円（前年同期比27.9%減）

- セラミックコンデンサ
 - 前年同期比で減収・減益。
 - 自動車市場向けの販売が増加、産業機器市場及び代理店向けの販売が減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - 前年同期比で減収・減益。
 - 産業機器市場向けを中心に販売が減少。
- インダクティブデバイス
 - 前年同期比で減収・減益。
 - 自動車市場・産業機器市場向けの販売が減少。
- 高周波部品
 - 前年同期比で増収・増益。
 - ICT市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - 前年同期比で減収・減益。
 - 自動車市場・ICT市場向けの販売が減少。

第3四半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

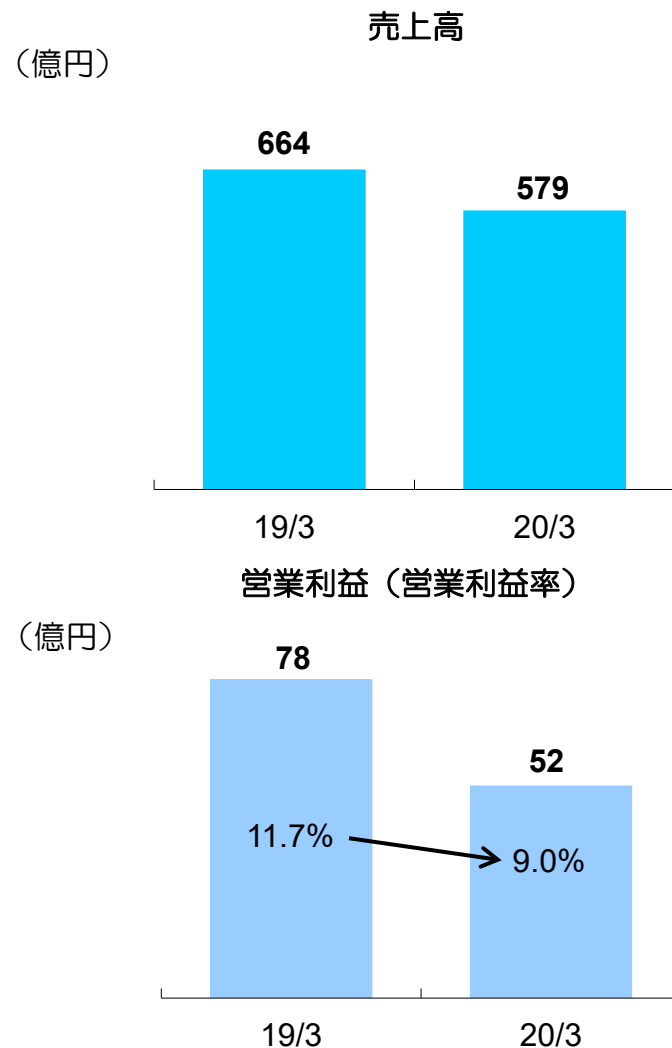


売上高 203億円（前年同期比3.0%増）
営業損失 △55億円（前年同期比―%増）

● センサ

- ⌢ 自動車市場・産業機器市場向けのコンベンショナル製品（温度・圧力、ホールセンサ）の販売が減少し、収益も悪化。
- ⌢ TMRセンサは、自動車市場・ICT市場向けの販売が大幅に拡大し増益。
- ⌢ MEMSセンサは、モーションセンサが、顧客基盤の拡大によりICT市場向けの販売が拡大。また、アプリケーション基盤の拡大により自動車市場やドローン等産業機器市場向けの販売も拡大。
MEMSマイクロフォンは、スマートフォンやIoT機器向けの販売が拡大。

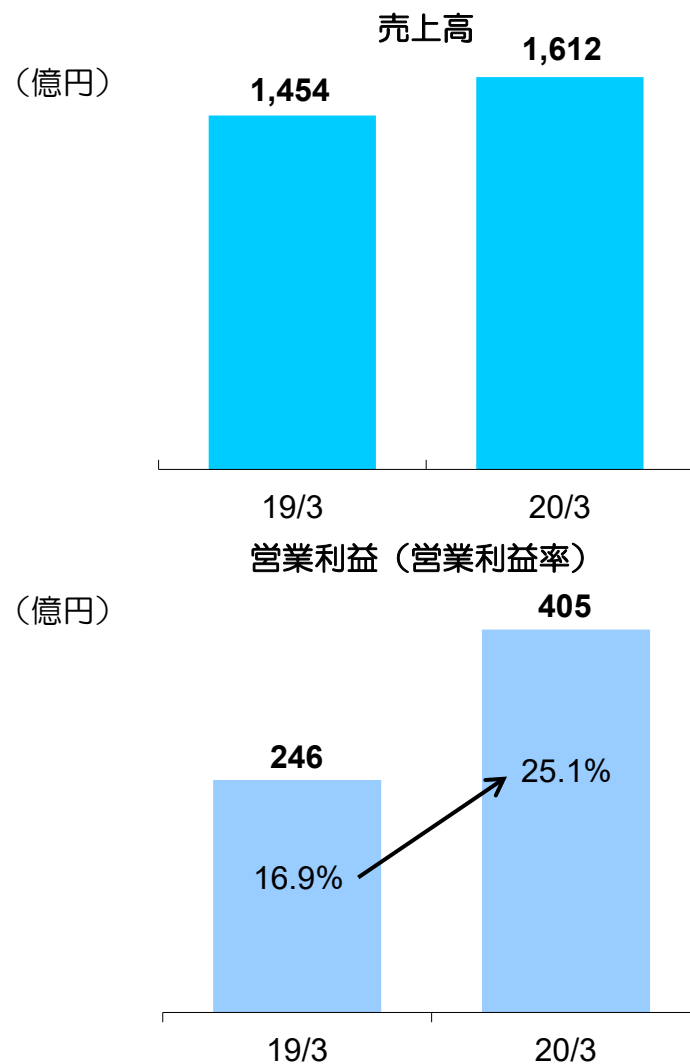
第3四半期各事業の状況（磁気応用製品事業）



売上高 579億円（前年同期比12.8%減）
営業利益 52億円（前年同期比33.3%減）

- HDDヘッド・サスペンション
 - 前年同期比で減収・減益。
 - HDD組立数量が大幅に減少。
 - サスペンション応用製品（微細金属加工部品）の数量が減少。
- マグネット
 - 前年同期比で減収・減益。
 - 産業機器市場向けの販売が減少。

第3四半期各事業の状況（エナジー応用製品事業）



売上高 1,612億円（前年同期比10.9%増）

営業利益 405億円（前年同期比64.6%増）

- エナジーデバイス（二次電池）

- 前年同期比で増収・増益。

- スマートフォン、ノートPC向けの販売が拡大。

- ワイヤレスイヤホン（TWS）等の小型機器向けのミニセル製品の販売が拡大。

- 電源

- 産業機器用電源は、需要の低迷により前年同期比で減収・減益。

セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow



(億円)		2019年3月期 第3四半期 (A)	2020年3月期 第2四半期 (B)	2020年3月期 第3四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	427	396	373	△ 54	△ 12.6	△ 23	△ 5.8
	インダクティブデバイス	373	357	348	△ 25	△ 6.7	△ 9	△ 2.5
	その他受動部品	267	266	263	△ 4	△ 1.5	△ 3	△ 1.1
	受動部品合計	1,067	1,019	983	△ 84	△ 7.9	△ 36	△ 3.5
	センサ応用製品合計	197	208	203	6	3.0	△ 5	△ 2.4
	磁気応用製品合計	664	545	579	△ 85	△ 12.8	34	6.2
	エネルギー応用製品合計	1,454	1,737	1,612	158	10.9	△ 125	△ 7.2
	その他	126	194	179	53	42.1	△ 15	△ 7.7
	合計	3,508	3,702	3,556	48	1.4	△ 146	△ 3.9
営業利益	受動部品	147	114	106	△ 41	△ 27.9	△ 8	△ 7.0
	センサ応用製品	△ 55	△ 55	△ 55	0	-	0	-
	磁気応用製品	78	35	52	△ 26	△ 33.3	17	48.6
	エネルギー応用製品	246	425	405	159	64.6	△ 20	△ 4.7
	その他	△ 12	△ 6	△ 25	△ 13	-	△ 19	-
	小計	405	512	484	79	19.5	△ 28	△ 5.5
	全社および消去	△ 77	△ 73	△ 80	△ 3	-	△ 7	-
	合計	328	439	404	76	23.2	△ 35	△ 8.0
営業利益率		9.4%	11.9%	11.4%	+2.0pt	-	-0.5pt	-
為替	対ドルレート (円)	112.90	107.39	108.74				
	対ユーロレート (円)	128.87	119.48	120.34				

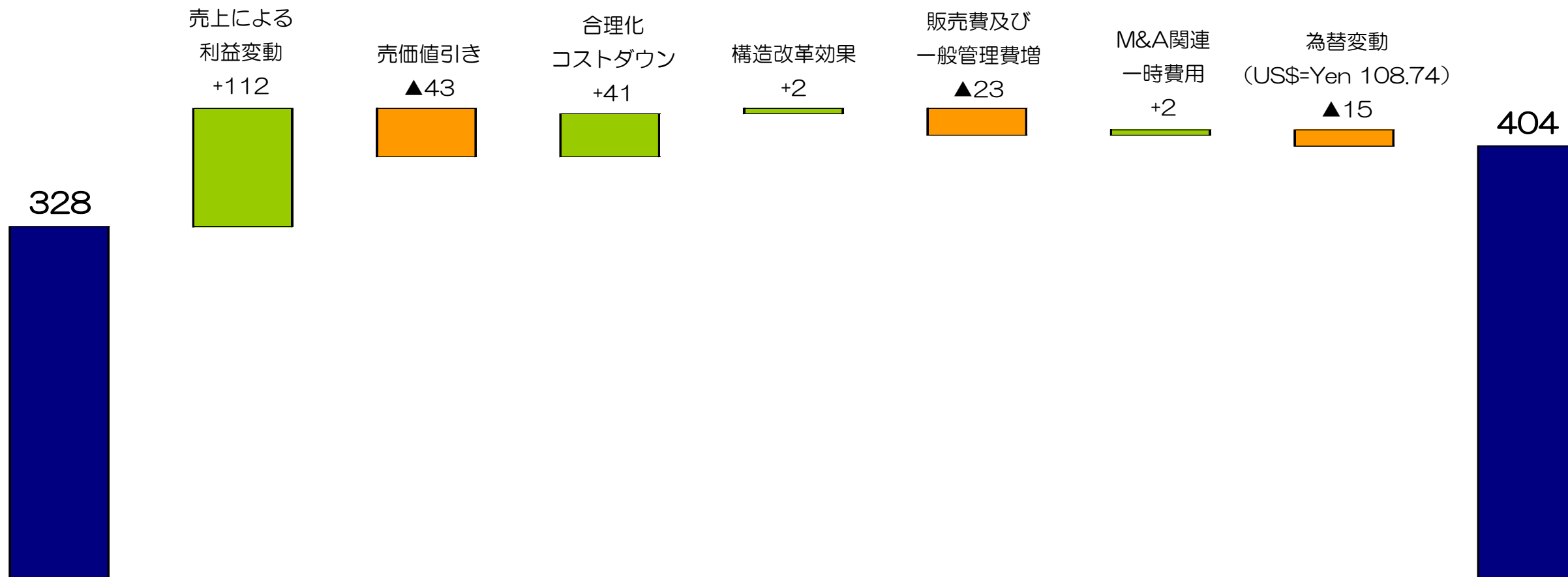
営業利益増減分析

2019年3月期
第3四半期
328億円

営業利益 +76億円

2020年3月期
第3四半期
404億円

(単位：億円)



2020年3月期 第3四半期（9か月）連結業績概要

(億円)		2019年3月期 第3四半期累計実績 (2018.4.1~2018.12.31)	2020年3月期 第3四半期累計実績 (2019.4.1~2019.12.31)	対前年同期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		10,727	10,627	△ 100	-0.9
営業利益		949	1,092	143	15.1
営業利益率		8.8%	10.3%	+1.5pt	-
税引前利益		888	1,098	210	23.6
当期純利益		635	744	109	17.2
1株当たり利益 (円)		502.78	589.16	-	-
為替	対ドルレート (円)	111.17	108.74	2.2%の円高	
	対ユーロレート (円)	129.55	121.12	6.5%の円高	
為替変動による 影響金額		売上高：約345億円の減収 営業利益：約35億円の減益			

2020年3月期 連結業績及び配当金見通し

(億円)		2019年3月期 通期実績	2020年3月期 業績予想 (2019年4月発表)	2020年3月期 業績予想 (2019年10月発表)	業績予想対前期比	
					増減	増減率(%)
売上高		13,818	14,200	13,900	82	0.6
営業利益		1,078	1,200	1,200	122	11.3
営業利益率		7.8%	8.5%	8.6%	+0.8 pt	-
税引前利益		1,156	1,180	1,180	24	2.1
当期純利益		822	840	840	18	2.2
1株当たり利益(円)		651.02	665.11	665.06	-	-
配当金		上期：80円 下期：80円 年間：160円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	-	-
為替	対ドルレート	110.94	108.00	108.00	-	-
	対ユーロレート	128.48	122.00	122.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		1,736	2,000	2,000	264	15.2
減価償却費		1,066	1,300	1,300	234	22.0
研究開発費		1,152	1,200	1,200	48	4.2

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2020/3q_1.htm